

## 基礎・基盤的取組

委員会の主要意見		主要意見に対する国環研の考え方
現状についての評価・質問など	<p>第5期のスタートの年であり、それぞれの基礎・基盤的取組みが順調に進められていると評価する。</p> <p>大学研究者による研究では難しい広域・継続的なモニタリング調査など、科学的な知見の基盤をしっかりと整備していることは高く評価される。</p> <p>今後の地球環境問題や地域の環境問題に対応できる、多くの優れた技術・手法・モデルが開発されている。</p> <p>政策対応研究に関し、物質系の研究は、従来から政策との関係や要請が比較的明確であり、着実に成果を挙げていると考える。</p> <p>資源循環分野に関して、標準ナノプラ粒子を作成したことは毒性学的研究分野への貢献が高く評価できる。</p> <p>地球システム分野の IPCC AR6 WG1 への貢献は数・内容ともに大きく、この分野でのリーダーシップを取っている。</p> <p>環境・健康リスクに関する基礎研究、手法・技術の開発、特定の規制に関する応用研究、データベースの開発、多量のアウトプットを高く評価する。</p> <p>気候変動適応分野では、気候変動適応に関する幅広い研究を進められているとともに、気候変動適応法に基づく重要な役割として全国の地方が適応計画を創って行くための重要な基盤的取組みを着々と行っている。</p>	<p>ご評価いただきありがとうございます。今後も環境問題の解決に向けて各分野の研究を進め、政策貢献を進めていきます。</p>
今後への期待など	<p>次のプログラムに育つ新しい研究の芽を積極的に育てる努力を続けてほしい。</p> <p>気候変動適応のあり方を体系化し、「適応学」を開拓するという計画は野心的で、期待している。</p>	<p>今後も新たな研究の芽を育てる場として基礎・基盤的取組を重視いたします。</p> <p>新たな気候フェーズにあわせた知恵の集積としての新たな学としての体系化という大きな目標に向けて、今後の活動を進めたいと</p>

		考えています。
	研究所の職員が国際的なイニシアティブをとっていることに関して、さらに広報してもよいように感じている。	国際活動については、より良く把握し広報するように努めます。
	モデル開発や技術開発等は政策的な利用可能性が高いものもあると考えられ、政策的な展開にも期待したい。	今後も様々な研究成果を政策形成につなげていく取組を進めていく所存です。
	大学等の研究機関でできる研究とそうでない研究を各研究者がしっかり認識して、NIES の力が最も発揮できる分野における研究を中心に活動をすべきである。	先導的・萌芽的研究を行える環境を維持しつつ、長期的・組織的に NIES でこそ継承・発展が可能な調査研究で独自性をより明確にしていくことの意義を所員で共有していきます。
	東日本大震災被災地域における活動では、都市計画やコミュニティ形成の専門家との連携が不可欠である。	東日本大震災被災地における地域づくりにおいては人文社会学分野の研究者を含めた他機関の専門家との連携を進めているところですが、より密接な連携を図るため、所内においても専門人材の採用や育成を進めます。
	生物多様性の分野は、現在科学による政策の基礎付けを特に必要としている分野と思われることから、政策課題になおいっそう対応した研究の展開を期待したい。	生物多様性分野については、「生物多様性研究拠点」及び生物多様性評価連携研究グループを立ち上げて、組織的に政策対応を強化しております。すでに環境省による環境 DNA 手法の標準化検討事業にて開発手法が採用されるなど成果を挙げており、今後も政策課題に対応した研究を推進いたします。
	社会システム分野の地球規模の持続可能な社会の実現に向けた人材育成についてはコロナ禍でも、コロナ後でも、必要に応じて、Online, hybrid での人材育成は効果的でもあると思われる。	人材育成について、2021 年度は比較的入門的なトレーニングの実施にとどまっていたが、2022 年度は本格的なトレーニングがオンラインでできるようにスケジュールの検討をはじめています。
	基盤計測機器の共同利用・共有の検討を進めることを期待する。	基盤計測機器の所外利用に関しては今後検討いたします。
	気候変動にかかる関連機関や市民を含んだモニタリングを開始したことや、他の項目も含め長期的なモニタリングに期待する。	気候変動に係る新たな項目や手法を用いた長期モニタリングなどに挑戦しつつ、観測結果やそれに基づく情報を整理、分析していきます。